

言語文化部会 令和3年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 語彙の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚を豊かにする言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材分析を行い、社会生活とのつながりを意識させる言語活動を設定すれば、古典に親しむ生徒を育成することができる。

《研究内容》

① 「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫

(1) 語彙の量を増やし、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫

- ・ 辞書に書かれたその言葉の意味を理解するだけにとどまらないよう、単位時間を通して獲得させたい・気付かせたい言葉を明確にした指導計画を作成する。

② 「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫

(1) 言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語彙の定着）

- ・ 主体的に言葉を獲得する姿を目指し、言葉と言葉とのつながりやその役割に気付かせる指導・援助を明確にする。

(2) 3領域との関連の中で、語句の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫

- ・ 言葉の知識をそれぞれの領域と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域において言葉の知識を獲得できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

(1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

- ・ 言葉に対する正しい根拠を基にして、自覚的に用いていくことができる活動の場を設定する。

『「言葉への自覚」を高める』の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。